

沖縄国際大学 2023 年度 F D 支援プログラム成果報告書

下記内容により、F D 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「F D 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	下地賀代子 	所属・職名	総合文化学部日本文化学科・教授
プログラム名称	「アカデミック・ライティング」のテキストと継続的な指導法の確立		
実施及び成果の 要旨	2022 年度に助成を受けた同名プログラムの継続として、2023 年度に本プログラムを申請、実施した。 日本文化学科では 2 年次必修科目「アカデミック・ライティング」(3 クラス)において、レポートや論文作成に必要な学術的文章に関する知識・技術(アカデミック・スキル)の向上、論理的思考法の習得を目的とする授業を行っている。2023 年度は、同科目と関連付けながら、ライティングセンターの運用方法についての試験的な実践を試みたのだが、台風の影響によって実現しなかった。 一方、2023 年度前期科目「アカデミック・ライティング」で、前年度に作成した簡易製本版テキスト(以下、製本版テキスト)のさらなる内容の検討は順調に進めることができ、学科のオリジナルテキスト『アカデミック・ライティングー沖国日文オリジナルテキストー』を出版することができた。今回の出版によって、本テキストは科目「アカデミックライティング」において通年度的に使用できるようになった。その結果、学科全体として、卒業論文の執筆に必要なアカデミック・スキルの適切かつ継続的な指導が可能となった。学生自身にとっても、保管が容易になり、他科目のレポートを執筆する際にも繰り返し参照できるようになることが期待される。 また、2024 年度に向けて科目「アカデミック・ライティング」における SA 業務の再検討、ライティングセンターとの連動方法の再構築を行ったことにより、今後はライティングセンターの実質的かつ安定的な運用を目指していく。		
実施期間	自 : 2023 年 4 月 1 日 至 : 2024 年 3 月 31 日		

※共同実施者(2人以上の場合は、別紙添付のこと)

申請者氏名	(別紙参照) 印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

目 的	日本文化学科では2年次必修科目「アカデミック・ライティング」においてアカデミック・スキルの向上、論理的思考法の習得を目的とする授業を行っており、2022 年度は、本学科の研究領域に即した「アカデミック・ライティング」のためのテキストの作成を主要な目的として活動を行った。だが、もう1つの目的として掲げていた本学科のランティング・センターの実質化については検討不十分であり、次年度も活動を継続する必要があると考えることから、本プログラムを申請、実施した。
活 動 内 容	本プログラムにおける主要な活動内容は以下の通りである。 1. 科目「アカデミック・ライティング」と関連付けながら、ライティングセンターの運用方法についての試験的な実践を試みた。具体的にはSA活動および指導を通して同科目のSA学生のアカデミック・スキルのさらなる向上を図り、ライティングセンターのチューターとして活動してもらおうとした。ただ、期間限定的にライティングセンターの設置はしたものの、台風の影響で稼働することができなかった。 2. 2023 年度前期科目「アカデミック・ライティング」において、実際にプレテキストを使用し、その内容を検証した。共同申請者は2023 年度の同科目の担当者であり、適宜、問題点などの報告を申請者に行っていた他、授業終了後の2023 年 9 月にはプレテキストの内容に関するミーティングを実施し、テキストの内容、科目全体に関して改善すべき点とその方策を議論した。 3. 2での議論の内容をふまえ、以下の内容を実施した。 3-1. 授業のテキストとして通年度的に使用できるようにするために、編集責任者として、下地がプレテキスト全体を見直し、その完成原稿を元に、テキスト『アカデミック・ライティングー沖国日文オリジナルテキストー』を作成、出版した。なお、出版には出版社のオリジナルテキスト出版サービスを利用したことで、本プログラムからはレイアウト費用のみを支出した。 3-2. 次年度（2024）のSA学生の選出、また科目「アカデミック・ライティング」におけるSA業務の再検討、ライティングセンターとの連動方法も再構築した。後者について具体的に述べると、ライティングセンターの開設時期（授業内容に合わせて2つの期間に分けて開設）、また、科目担当者との連携の方法（受講学生への指示の仕方、SA 兼ライティングチューターとの情報共有の徹底）の見直しを図った。これらをふまえ、2024 年 2 月に科目担当者、同年 3 月にSA候補学生との事前打ち合わせを行った。
成果・結果・効果	まず、活動内容の1について、共同申請者がSA活動を通して学生3名を指導していくとともに、申請者からもSA活動についての聞き取りを行った。聞き取りは、授業・テキストの内容について学生目線からの意見を聞くとともに、SA活動への具体的なアドバイスを行うことで、ライティング・チューター指導にも繋げることを企図していた。前期の授業期間の後半から夏季休業期間にかけてライティングセンターを開設したのだが、先述したように、台風の影響によって実際に稼働することはできなかった。よって、SA 学生もライティング・チューターとしての活動経験は得られなかった。 活動内容の2および3-1について、科目「アカデミック・ライティング」で前年度に製本版テキストを使用することにより、科目担当者の学術的文章作成に関する指導力の向上が図れた。さらに、学科の実情にあった「アカデミック・ライ

	ティング」のテキストを出版できたことによって、同名科目においてのみならず、学科全体として、卒業論文の執筆に必要なアカデミック・スキルの適切かつ継続的な指導が可能となった。学生自身にとっても、保管が容易になり、他科目のレポートを執筆する際にも繰り返し参照するようになることが期待される。
今 後 の 展 望	活動内容の3-2で示したように、科目「アカデミック・ライティング」におけるSA業務の見直し、ライティングセンターとの連動方法を再構築したことにより、次年度（2024）はライティングセンターの実質的な運用が目指せると考えている。本プロジェクトを契機とする日本文化学科の取り組みを軌道に乗せることができれば、将来的には全学的な活動に発展する可能性もあると考える。

共同申請者氏名	葛綿正一	所 属 ・ 職 名	日本文化学科・教授
共同申請者氏名	桃原千英子	所 属 ・ 職 名	日本文化学科・教授
共同申請者氏名	奥山貴之	所 属 ・ 職 名	日本文化学科・准教授